

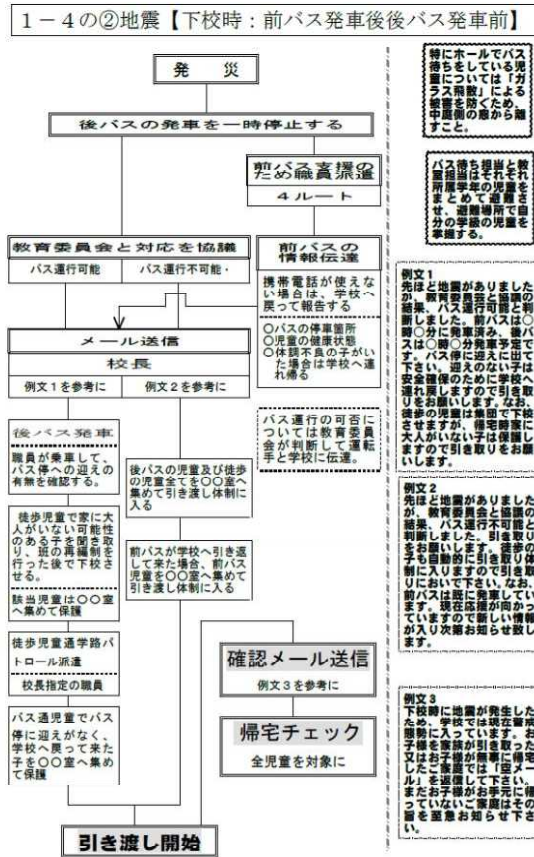
1. 実践の概要

タイトル	災害時における対応の共通理解・情報共有に係る工夫（美郷町立仙南小学校）
概要	1. 災害発生時に学校はどのような対応を取るのか、保護者にはどのような行動をお願いしたいのかを明らかにし、学校と家庭双方が確実に共通理解をしておくための工夫 2. 災害時における確実な児童の引き渡し及び情報収集のための方策の工夫と周知徹底 3. 災害時、特に周りに大人がいない場合にどうすればよいのかを児童に理解させるための授業について

2. 実践内容

実践方法と進め方	工夫した点○ 苦労した点●
<p>災害発生に備えた「防災マニュアル」については各学校とも整備が進んでいるものと思う。しかし「児童が学校にいる時の発災に際してどのような情報提供がなされるのか」「引き取りの具体的な手順や留意点は何か」「登下校の途中で災害が発生した場合に子ども達はどのように行動するよう指導を受けているのか」「スクールバス乗車中の発災に際して教育委員会とどのような取り決めがあるか」「児童が家庭にいる時間帯に発災した場合、学校として保護者にどのような情報提供を求めているのか、その方法は？」などが明確にされ、学校（職員）と保護者の双方が確実に理解できるようなところまで踏み込んでいるであろうか。</p> <p>本校ではこの点について解決するために「防災対応マニュアル（職員必携）」「かけがえない命を守るために（在籍全家庭に配布：保護者向けマニュアル）」「『イザ！』の授業（災害から身を守るための行動指針・全学年で実施）」の3つをワンセットと考え、それぞれの内容をきちんと整合させるとともに周知を図ってきた。特にマニュアル（教師向け・保護者向け）については「ケース別の対応」を「フローチャート形式」で表し、欄外に留意点を書く等、書式を統一した。</p>	
<p>1. 「マニュアル」について (1) 職員向け</p> <p>※本校では全校児童の73%がスクールバス通学であり、4路線を登校時と下校時にそれぞれ2便体制で運行されている。児童にもわかりやすい呼び方ということで、それぞれ「○号車前バス・後バス」と呼称している。</p>	<p>○次の3点については「ケース別の対応」とは別に独立させて冊子の一番前に置いた。</p> <p>①「消防車・救急車の出動要請」について、具体的な言葉（消防署からの問いかけとそれへの答え方）の例 ②「配慮を要する児童」についての扱い、特に肢体不自由児への対応、パニックを起こしやすい児童への対応 ③児童引き渡し手順</p> <p>○想定した「ケース」</p> <p>①地震【授業時】②地震【非授業時】③地震【登校時】④地震【下校時：前バス発車前】⑤地震【下校時：前バス発車後後バス発車前】⑥地震【下校時：後バス発車後】⑦地震【校外学習時】⑧地震【在宅時】⑨気象災害【事前予測による休校等】⑩気象災害【天候急変への対応】⑪気象災害【校外学習時】⑫学校火災の12のケースを想定した。</p>

職員向けマニュアルの内容例



○バス運行の可否、ケース別の判断基準、対応等については町教育委員会と綿密な打ち合わせを行い、共通理解を図った。

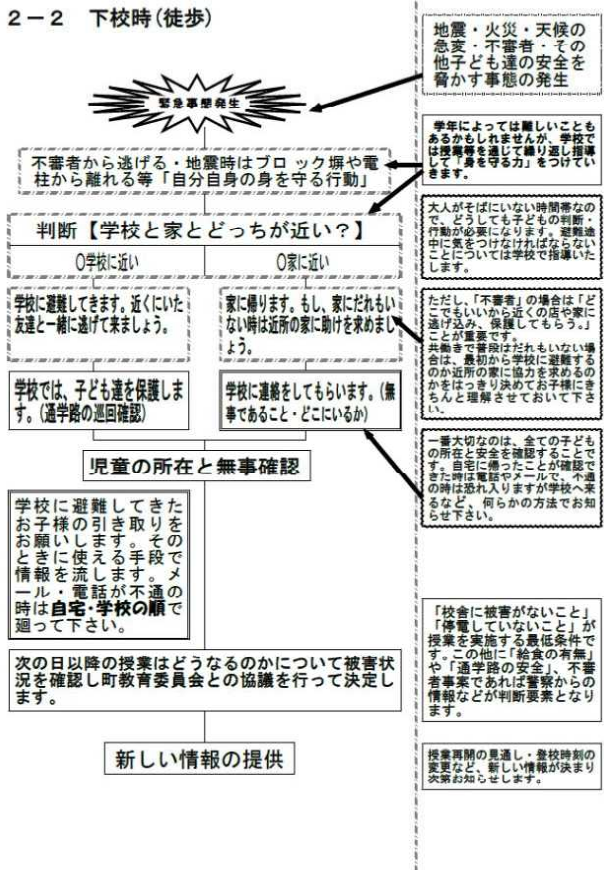
○いざという時に慌てなくてすむように、学校から発信するメールの連絡文面をあらかじめ考えておき、場面別に「例文」として全てのケースで用意した。

(2) 保護者向け

※全部で15ページ(A4版)あるマニュアルを、ピンク色のファイルに綴じて在籍全ての家庭に1冊ずつ配布。その際「常にパッと手に取れる場所へ置くこと」をお願いしてある。

- 「学校のすること」「保護者・ご家族にお願いしたいこと」「子ども達の行動(学校で指導した内容)」「留意点・補足」について「囲み線」を使い分け、それぞれがどうするのかを明確にした。
- 登校前に各家庭で判断する必要がある場合(大気の状態が不安定な場合等)を例示し、保護者にも安全を守るための協力を依頼した。
- 学校からの連絡を受けるだけでなく、場合によっては各家庭の状況を学校に報告してもらう必要があること、その方法について明示した。
- 保護者向けマニュアルの「ケース分け」及び記載内容
 - ①子ども達が学校にいる時間帯の緊急事態②子ども達が登下校の途中での緊急事態②-1登校時(徒歩)②-2下校時(徒歩)
 - ②-3バス乗車時③子ども達が家庭にいる時間帯の緊急事態④危険が前もって予想される場合④-1お子様が学校にいる時④-2お子様の登校前
- ※引き取り・引き渡し要領
- ※緊急連絡①学校から家庭へ②家庭から学校へ
- ※緊急時児童状況確認カード(例)
- ※緊急時児童引き渡しカード(例)
- ※緊急時連絡先一覧

2-2 下校時(徒歩)



○最悪のケースを想定して「学校とどうしても連絡が取れない場合は自動的にこうして下さい。」という記述にしてある。

2. 引き渡し及び情報収集

※「引き渡しカード」について
本校が工夫した点

- ① 記入に時間がかからない。
- ② 「誰が」「誰に」引き渡したかをきちんと記録できる。
- ③ カードは「一人一枚」として全員分を揃え学級毎にファイリングして一括保存する。
- ④ 更新が簡単なようにカードのフォームに個人名を全校名簿等のデータベースから流し込めるようにする。

緊急時児童引き渡しカード(見本)

平成25年度美郷町立仙南小学校

引き渡し日時 平成 25 年 〇 月 x 日 午前・後 3 時 25 分	
学年・組	1-1
氏名	仙南 太郎
在学兄弟姉妹	3-2 花子
引き渡しの結果	<input checked="" type="checkbox"/> 引き渡してきた <input type="checkbox"/> 引き渡しできなかった
引き渡した相手	(児童に確認の上、該当者にチェック) <input checked="" type="checkbox"/> 父 <input type="checkbox"/> 母 <input type="checkbox"/> 祖父 <input type="checkbox"/> 祖母 <input type="checkbox"/> 兄 <input type="checkbox"/> 姉 <input type="checkbox"/> おじ <input type="checkbox"/> おば <input type="checkbox"/> その他 (下欄に記入してもらうこと) 氏 名 _____ 住 所 _____ 児童との関係 _____
引き渡し確認者	<input checked="" type="checkbox"/> 担任 <input type="checkbox"/> 担任外 ()
備考	

○データの流し込みにより更新が簡単

○責任が明確

○必要事項を「チェック」する形式

※情報収集について

※美郷町では町内全ての園・学校にメール配信システム「eメッセージpro2」を導入し、必要経費は町で負担してくれている。

※仮に停電となっても登録した携帯電話から送受信できるので災害に強い。

※その機能の一つに「返信へのメッセージ添付」があり、この機能を利用して児童が家庭にいる時に発災した場合、それぞれの状況を報告してもらえるようにしている。

※緊急時時児童状況確認カード

○児童が家庭にいる時間帯に発災した場合、学校としてほしい情報がまとめてある。

○メール返信や電話連絡の時にこの書式に従ってもらい、学校に準備してあるファイルに記入していく。

○「一人一枚」「データベースからのデータ流し込み」は引き渡しカードと同じ。

※「引き渡しカード」及び「緊急時児童状況確認カード」はそれぞれファイルに綴じて教頭机前の棚に保管していつでも使える状態にしている。



「かけがえのない命を守るために」に記載された内容から

2. 「緊急連絡」

(1) 学校から家庭へ

- ①「緊急連絡メール」を使って連絡します。
- ②「受信確認」を求められていた場合は返信をお願いします。
※「eメッセージ」システムでは「空メール（Re:）」で返信しても登録者名が表示されるようになっています。
- ③夜間や休日等、お子様が保護者の元にいる時間帯の発災については「被害が出た家庭は報告して下さい」というメッセージが添えられることがあります。その場合は次の「家庭から学校へ」を参照して返信して下さい。

(2) 家庭から学校へ

- ①休日・長期休業・夜間など、お子様が家にいる時に緊急事態が発生することは十分にあり得ることです。
- ②その場合、学校が第一に行わなければならないことは「児童の安否確認」です。お子様が無事かどうか他に、例えば住居に被害はないか、家族にけが人などはないか、避難をしているか、教科書や文房具等を失っていないかなど、お子様の生活環境や今後の学習に重大な影響を与えそうなことに対応するために学校で把握しておきたい情報がたくさんあります。
- ③学校からのメールに対する返信に情報を記載していただくことを原則としますが電話が使えない場合は電話でも結構ですし直接のご来校でもかまいません。
※直接学校へメールを送ることはできません。震度5弱以上の場合は学校から「被害が出た家庭は報告して下さい」というメールが届きますので「本文」に被害状況を記入して返信して下さい。被害がない場合は「空メール」で結構です。
- ④学校で緊急事態の初期に知りたい情報は、次のページの「緊急時児童状況確認カード」にある4～7と「連絡事項」に書かれる内容です。学校では寄せられた情報をこのカードに記録し、対応にあたります。メール・電話でご連絡の場合はこの順番に従って書き込み(お話を)いただくのと記録が取りやすいです。

緊急時児童状況確認カード(見本)

対象児童	1年 2組	氏名	仙南 太郎
1. 状況確認日時	○月 ×日 (△) 時刻 (20:15) <small>24時間で記入</small>		
2. 確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> 家庭訪問 <input type="checkbox"/> 保護者(家族)来校 <input type="checkbox"/> その他()		
3. 確認者	<input type="checkbox"/> 担任 <input checked="" type="checkbox"/> 担任外(校長:メール返信による)		
4. 児童の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 無事 <input type="checkbox"/> 負傷 ①部位() ②種別及び程度() <input type="checkbox"/> 入院 搬送先() <input type="checkbox"/> その他()		
5. 家族の状況	<input type="checkbox"/> 全員無事 <input checked="" type="checkbox"/> 負傷者あり(おばあちゃん転んで捻挫) <input type="checkbox"/> その他()		
6. 住居被災状況	<input checked="" type="checkbox"/> 被害なし又は軽微 <input type="checkbox"/> 半壊 <input type="checkbox"/> 居住可 <input type="checkbox"/> 全壊 <input checked="" type="checkbox"/> 居住不可		
7. その他	①避難の有無 <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり() ②転出希望 <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり() ③当面の連絡先(自宅・両親の携帯電話) ④教科書・学用品等滅失(失うこと) <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり		

学校への連絡事項

本人はたいぶびっくりしたようで、まだおびえています。おばあちゃんのけがは大したことなく、家にいます。家の中は食器などがたいぶ壊れましたが、住むには支障がありません。停電が続いていますので夜は不便をしています。学校が再開される予定がわかりましたらお知らせ下さい。(母)

3. 『イザ!』の授業

※6月下旬、全ての学年に対して校長が実施した。

※指導時間は各学年とも1単位時間。その後各学級において追加指導（学級の時間等を利用）1単位時間。

※パワーポイントによる校長自作の指導資料による。

※高学年用と低学年用に分けて作成。（ほぼ同じ内容だが、言葉の使い方や使う文字、説明の仕方を発達の段階に合わせる。）

※静止画についてはインターネット上の防災関連サイト、「～地震の記録」などから見つけた画像を使用。

※動画については「ユーチューブ」にアップされたものをダウンロード、ファイル変換ソフトでWMV形式に変換し、動画編集ソフトで編集して組み込んだ。

※主な説明場面（抜粋）

自然災害の「イザ!」

- 学校にいる時は先生方の指示
- 家にいる時は家族の指示

☆問題は

「まわりに大人がいない時にどうするか」です。

地震

1. 「最初の大きなゆれ」による被害を防ぐ。
2. 「判断」。
3. 「集団行動」。

いてはいけない場所（危険）

☆「たおれる」心配のあるものの近く

- ブロック塀
- 自動販売機
- 電柱など

☆「落ちてくる」心配のあるものの下

- かわら屋根
- かんばんなど

学校の方が近い

- 学校へ避難します。
- 必ず「登校班全員」で行動します。
- 落ちている物や倒れている物に注意!
- 「頭」を守ります。（ランドセルや体育袋）
- 切れてたれ下がっている「電線」には絶対にさわらない。
- 学校についたら先生の指示にしたがう。

登校時(集団登校)

- まずは「自分たちの」(登校班の)身を守る。

登校班の上級生は、下級生をリードしなさい。

動画

阪神淡路大震災の時、コンビニ店内防犯カメラが捉えた店内の様子・その他。

○激しい揺れや甚大な被害の様子を視覚で捉えさせる。



○この他に倒壊したブロック塀・倒れた自動販売機等の画像を提示。

家の方が近い

- 家の方へ避難します。
- 必ず「登校班全員」で行動します。
- 落ちている物や倒れている物に注意!
- 「頭」を守ります。（ランドセルや体育袋）
- 切れてたれ下がっている「電線」には絶対にさわらない。

一番近い登校班のメンバーの家で、「大人がいる家」に「全員」避難します。

一人一人の家に帰るのではありません。

○具体的な避難行動の留意点や約束事を理解させる。

動画

オーストラリアで撮影された「落雷の瞬間」。
スローモーション・拡大画像を含めて3回繰り返す。

動画

激しい降雹の様子。
大人の握り拳2個分もあろうかという巨大な雹が数分間にわたって滝のように降り注ぐ様子。

○どちらもめったに目にすることのできない映像。特に落雷について、子ども達は「稲妻」は見たことはあっても地面に落ちる場面は見たことがなく、びっくりしていた。

	<p>「カミナリ」・「ひょう」のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まっ黒い雲が近づく ・あたりが急に暗くなる ・ヒヤッとした冷たい風がふき出した ・「ピカッ」「ゴロゴロ・・・」 <p>→すぐに近くの家に避難(「お願いします、避難させて下さい。」)</p>	<p>○避難の時期を逸することがないように、また、避難をお願いするにあたってのマナー指導も同時に行った。</p>
	<p>動画</p> <p>東日本大震災の発災時に撮影されたバスの中の様子。 (おそらく警察か自衛隊関係のバスで乗客はおらず、運転席の後方から固定カメラで撮影されたもの。)</p>	<p>さわがない・立ち上がらない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今見たのは、「震度6」のときのバスの中です。 ・かなり大きくゆれましたが、さっき言ったとおり、「ゆれでバスがたおれる」ことはまずありませんから、さわいだり、立ち上がりたりしてはいけません。→運転手さんが安全な場所にバスを止めるジャマになります。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校へむかったら(朝・帰りとも)→先生方の指示にしたがいます。 ・バス停へむかったら 朝(登校時)→バス停に家の人が迎えに来ている人だけ降ります。迎えがない人はそのままバスに乗って学校へ来て、先生方の指示に従います。 帰り(下校時)→地震による被害がないか、小さいと判断された場合は、バスから降りたら気をつけて家まで帰ります。ただし、家にだれもいないことがわかっている場合はそのままバスに乗って学校へ来て下さい。 	<p>○揺れている間の注意点。(なぜそうしなければならないかをきちんと押さえる。)</p> <p>○地震の後のバスの運行ケースごとに留意点を提示。</p> <p>●教育委員会とかなり綿密に話し合い、ケース分けとそれぞれの対応を煮詰めた。</p>

連携先	団体名・組織名	連携の内容
教育関係	美郷町教育委員会	スクールバス運行時の発災に際しての対応について
保護者・PTA関係	保護者(全家庭)	内容の周知と協力依頼

3. 成果と課題

成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. いざという場合に「児童」「学校」「保護者」「教育委員会」はそれぞれ何をしなければならないか、具体的な方法や連携はどうかなどが明らかになり、共通理解ができた。 2. 児童にとっては「自分の身は、まず自分で守ろうとする意識」、保護者にとっては「我が子の安全について保護者として何が求められているのかについての理解」が向上した。 3. 「こんな場合はこのように」が明確となり、教職員の対応が統一性を持った。また、「引き渡し」「児童の現状確認」等重要な情報の取り扱い・保存方法がきちんと定められたことによって事後の対応が円滑に行えることが期待される。
----	--

<p>課 題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成25年度は開校初年度であったため新しい課題がいろいろとあり、「防災」関係にじっくりと取り組む余裕がなかった。「避難訓練」「緊急連絡訓練」等、「児童対象」「保護者対象」のように個々の訓練としては実施できたが、「児童と保護者」「保護者と教育委員会（バス）」のように連携して行う訓練にまでは至らなかった。 2. 「成果の2」に保護者の理解向上と書いたが、これは全体としての底上げがあったという意味である。実際はせっかく町で予算をつけて運用している「メール連絡システム」であっても、携帯電話の買い替え等でメールアドレスが変わってもなかなか学校のシステムに変更登録（町で採用しているシステムは登録やアドレス変更は保護者や家族が自分で行う）してくれない人もいる。全ての保護者に高い関心といざというときの行動が確実に取れる実行力を涵養していく必要がある。 3. 年度途中でスクールバスの運行について変更があった（帰りのバスの一部に園児が乗車）。このことについて園との調整・園の職員・保護者も含めた見直しが必要である。
<p>今後の継続予定</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①様々な対象者が連携しての訓練を計画し、実行する。 ②保護者の意識を高め、実行力を伸ばしていくための広報・啓蒙活動に力を入れていく。 ③園との話し合いを行い、園と共同で新しい計画を策定していく。